

# 3Q

産(さん)業社会と人間→総合的な探究(きゅう)の時間

3つの Q:世界で何が起きているのだろう

Question Q:自分の身の回りで何が起きているのだろう

Q:自分にできることは何だろう

総合学科推進部

令和5年12月13日 NO.4



## 【各学年の総合学習の取り組み】

### ○1年生 産業社会と人間 ～「私のライフプラン」ガイダンス終了→作成開始～

11月16日(木)の1年生「産社」の授業では、「私のライフプラン」ガイダンスを実施しました。昨年度代表として発表を行った2名の先輩から、自分のライフプランの発表をしてもらい、進路に関するアドバイスもいただきました。その後、自分のライフプランを作成していくための第一段階として、ワークシートをもとに、これまでの自分について振り返り、現在の自分について見つめ直す作業に集中して取り組みました。今後の授業の中で、一人ひとりが自分のライフプランを完成させていくことを目指します。クラス発表を経て、最終的には同じく総合学科を有する村田高校さんとオンラインで結び、合同発表会をする予定です。



### ○2年生 総合的な探究の時間 ～「地域探究」テーマ決定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現～

2年次で行っている「地域探究」では、テーマ決定後、次の探究のプロセスへと進んでいます。「情報収集」では、インターネット等を利用した資料集めだけではなく、各グループが美里町役場や小牛田駅、遠田警察署、福祉施設や保育園、小売店、企業等を対象にテーマに関する質問事項を考え、インタビューやアンケート調査を実施しました。校外の大人の方々とのやりとりを通じて、テーマに関する生の情報を集めることができました。

その後、「整理・分析」として、集めた情報を表や思考ツールを活用しながら整理していき、現在は「まとめ・表現」として、スライド作成と発表準備を行っています。

12月のクラス内発表を経て、学年発表、そして学習成果発表会の代表を決定する予定です。



### ○3年生 総合的な探究の時間 ～プレゼンテーションに向けて～

3年生の「系列探究」では、自分たちで決めたテーマに沿って各チームがインタビューやアンケートを進めました。



動物虐待について、ペットショップの方にインタビューをしました



町の活性化について、イベントの主催者や地域おこし協力隊の方にインタビューをしました



今後は12月12日と19日に発表を行い、総合学科の代表チームを選出します！

## 【総合学科生の活躍】

〇3年3組 伊藤茉里香さん「第29回 河北新報社 新聞記事コンクール」論説委員長賞 受賞！

身の回りで関心のある出来事を調べ、取材をして記事にする「一般記事」と、社会の出来事について、自分の意見や主張をまとめる「論説」の2つのジャンルで募集された当コンクールに「論説」部門で出品した総合学科3年伊藤茉里香さんが、見事「論説委員長賞」を受賞されました！  
以下、伊藤さんの受賞作品を掲載しますのでご一読ください。



中学校の頃、道徳の時間に性の多様性について考えることがあった。

題は「もし自分の身近な人に性的マイノリティであるとカミングアウトされたら何というか」というものだった。クラスの中では、「話してくれてありがとう」や「そうだったの」といった、相手を受け入れる言葉が多かった。私もその一人であったし、こうしたマイノリティを受け入れることが、多様性を求める社会の姿であると思っていた。しかし、その中で一人が「その場では何も言わないけど、その後縁を切ります」と発言した。その理由は、どうしても不快に感じてしまい、近くにいられなくなってしまうからだという。私は衝撃を受けた。そしてこういったマイノリティを受け入れ難いという意見も同時に受け入れることが、多様性を求める社会の理想なのではないかと思った。

だが、やはり差別やいじめは嫌悪の感情から始まることが多いため、その理想に近づくのはなかなか難しい。また、自分の許せないという思いを相手に押し付け傷つける行為ではなく、何かを受け入れないことを悪だと思える人も多くいる。

そのため、必要なのは相手の意見とその理由を否定せず、尊重し合うことだと思う。

しかし、急に尊重といわれても難しい。そこで私たちにできることは、いろいろな情報を手に入れることだ。自分が知らないところで誰かを傷つけないためにも、たくさんの知識を身につけ、周りには自分と違った意見や考えを持つ人がいることを自覚することが大切である。

多様性が認められる社会になれば、今身近にいる誰かの苦しい思いや肩身の狭い思いが解消されるかもしれない。そう考えると、社会問題である「多様性」もひとつごとではなく捉えられそうだ。

私は、多様性が正しい意味で広がることで、互いに否定せず、尊重し合える社会になるよう願っている。

## 〇“届けよう、服のチカラプロジェクト” 続報！

10月に小牛田児童館で、11月上旬に校内にて回収した不要になった子供服の仕分け・発送作業を行いました。ボランティアメンバーでチカラを合わせ、ベビー服・子供服夏用・子供服冬用の3種類に分別し、発送用段ボールに梱包しました。校内外の多くの方々の協力を得て、回収した子供服は段ボール5箱分になりました。たくさんの方々の思いが子供服を必要とされる方々へ届くよう、心を込めて発送しました。



児童館にて子供たちに活動報告！



児童館設置を意識したキャラクター回収BOXにたくさんの子供服！

大切に学校へ持ち帰り、子供服の仕分け・梱包作業へ！



子供服を必要とする難民の方々が笑顔になりますように、思いを込めて発送します！